



顕微鏡の検査について

当院の臨床検査科は採血室の隣にあるため、採血の際に検査室を見ることがあると思います。採血室のすぐ近くには顕微鏡が二台置いてあります。今回は顕微鏡を使った検査についてご紹介します。

【尿沈渣検査】

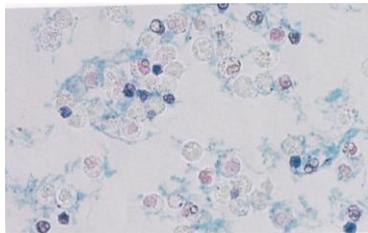
尿検査は試験紙を使って尿中に糖、蛋白、潜血などが出ているかを検査しています。尿沈渣顕微鏡検査は尿をスピッツに入れ遠心した後の沈殿物を顕微鏡で直接見て細胞を数えます。病気を特定するためではなく、異常を見つけるための検査です。まずはそのままの色調で細胞を見て、必要に応じて染色をします。

尿路感染症では細菌が多数いたり、泌尿器系のがんでは、がん細胞が見られたりします。

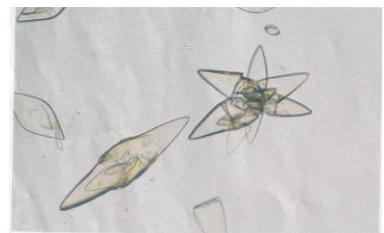
【尿沈渣で見られるもの】



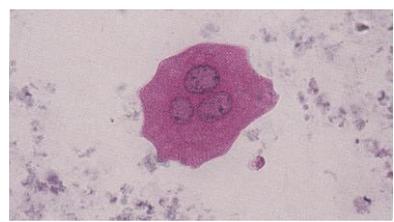
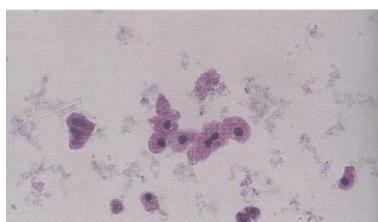
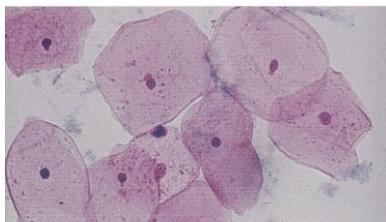
赤血球



白血球



結晶



様々な細胞

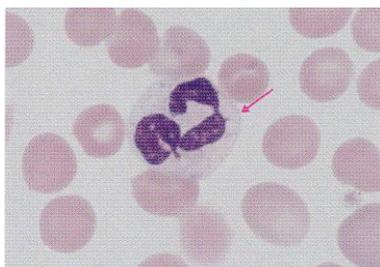
【末梢血液像】

血液部門では機械で血球の数を測定しています。異常があった際はスライドガラスに血液を薄く伸ばして染色した標本を作り、顕微鏡で確認します。白血球、赤血球、血小板などの細胞の大きさ、形、数や、未熟な細胞がないかなどを見ています。また、白血球は主に好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球の5種類に分けられます。血液像を見るときは必ず白血球を分類して割合を確認します。

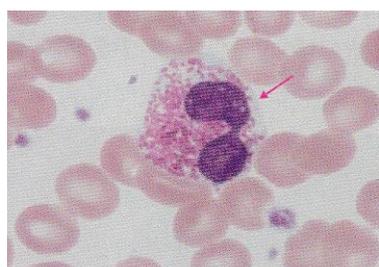


貧血では赤血球の厚さが薄くなったり、大きさがバラバラになったりします。白血病では、作られたばかりの未熟な白血球が増加します。増えている血球の種類でさらに分類されます。

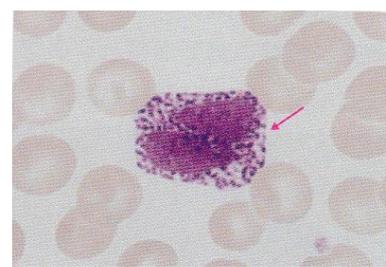
【顕微鏡で見た正常血球】



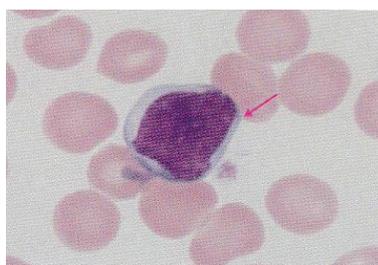
好中球



好酸球



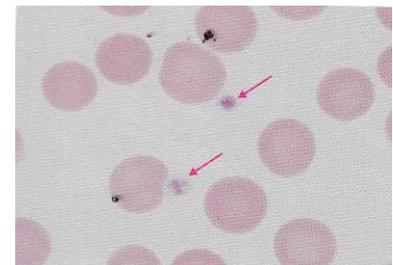
好塩基球



リンパ球



単球



赤血球と血小板

このほかにも、病理検査や細菌検査では癌細胞を見つけたり細菌の種類を特定したりと、より詳しい検査で顕微鏡を使用します。人の目で直接確認するという、臨床検査技師にとっても重要な検査です。日々研鑽に励んでいます。